

公益社団法人群馬県医師会

vol. 5

保育サポーターバンク通信



今から25年前に妊娠した時、大病院勤務で大学院生でもあった私は正直なところ茫然としました。預けるところは？何かあったらどうする？大学内に設置されていた保育園は、看護師さんの利用者はいても医師の利用者はおらず、同時期に産院した皮膚科の先生と二人でお願いし、承諾して頂きました。その後、前橋の実家に戻り市内の保育園、3歳の時に延長保育のある幼稚園へ。両親の手と、足りない時はベビーシッターをお願いして私は仕事を続けていました。小学校入学のタイミングでアメリカに行くまで元気に活動。長期の休みには様々なプログラムが用意されており、息子に合いそうな活動内容をアレンジしてやり繰りしました。日本でも海外でも他人の手を借りての育児でしたが、両親を含めた他人の手があったからこそ私の育児は成立していました。考えてみると、自分で育児は始まっていなかったような気がします。同時に、子どもへの多少の罪悪感もありました。ふと、心配になり聞いてみたところ、いろいろな人と遊べて楽しかったと返事がありました。取り越し苦労だったのか、子どもが気を使ったのかは分かりません。私の育児は最終局面に突入し、もう少しで完了となるころですが、相変わらず人の手を借りている事に変わりがないのが実情です。仕事に復帰するのも正解、しないのも正解。でも、仕事復帰を選んだ時、先生方に降りかかる子どもへの突然の病気のや習い事への送迎、急な残業等…また、このようなことが心配で復帰に二の足を踏んでいる…こんな時の解決策の一つとして、保育サポーターバンクという画期的なシステムが誕生して8年が経ちました。私の時代にもあったら良かったのにと羨ましく思います。大切な子どもたちが元気に大きくなるために、そして忙しいパパ、ママ先生が医療業務、活動を制限せずに続けていくことが出来るように少しでもお手伝い出来たらと、先輩の先生方に「尽力頂きました。これからの益々の発展をお祈りするとともに、沢山のご利用をお待ちしております。」



仕事と子育て

前橋市医師会理事 直田 祐子

INFORMATION

活動報告

月日	場所	内容
2019年4月21日(日)	群馬県医師会 セミナー室	第16回保育サポーター研修会
2019年9月20日(金)	高崎市市民活動センター・ソシアス	保育サポーター意見交換会
2019年11月10日(日)	群馬県医師会 セミナー室	第17回保育サポーター研修会
2019年11月28日(木)	群馬県医師会 大ホール	保育サポーター資質向上研修会 「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」

助成制度の紹介

- 子育て支援助成制度**
利用医師に利用料金の一部を助成します。
- チャイルド(ジュニア)シートの貸与**
保育サポーターにチャイルド(ジュニア)シートを貸与します。
- インフルエンザ予防接種料金の助成**
保育サポーターにインフルエンザ予防接種料金の一部を助成します。
- 緊急時のタクシー料金助成**
サポート中に緊急でタクシーを利用した場合に料金を助成します。

【保育サポーターバンク登録人数】

(2020年3月末日現在)

医師/187名 保育サポーター/222名

【保育サポーターバンク利用状況】

(2020年2月)

利用医師/54人 総利用時間/1259時間

退任相談員より

「心からの感謝を込めて」

元相談員 本多 悦子

皆さま、お元気でいらっしゃいますか。
昨年9月末に退任させていただくまで、あっという間の4年でした。今、相談員としての日々をたどってみると、素晴らしい皆さまと出会えた喜びと感謝が胸いっぱい溢れてきます。

いつもドキドキしながら臨んだ顔合わせは、サポーターさんの「大丈夫ですよ」の言葉がなんと頼もしかったことか。そして、0歳の赤ちゃんから中学生までたくさんの子どもの笑顔、泣き顔、はにかむしぐさ、元気な声など、どの表情・しぐさからも明日へのエネルギーを感じさせていただき幸せな時間でした。サポーターさんと一緒に、ご家族の幸せと健やかな成長を願わずにはられない経験をさせていただきました。

お世話になるばかりの私でした。保育サポーターバンクは、能登・島田相談員の強力コンビが、よりお力になれると安心してバトンタッチ!!

ご自分のことは後回しにしがちな皆さま、どうかお身体を大切に。直接お会いすることはできませんでしたが、お顔を思い浮かべつつ、心からの感謝を込めて

“ありがとうございました”

新任相談員より

相談員 島田 秀子

本多相談員からバトンタッチして、令和元年9月からお世話になっております。島田秀子です。

皆様からのご支援・ご理解があって成立している「保育サポーターバンク」であることを日々実感しています。

能登相談員と2人、感謝と笑顔のサポートを心掛けたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。



子育て医師保育支援相談室の様子です。
相談員が常駐していますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

月曜～金曜 10:00～16:00 祝日除く
面談などで不在の場合もございますので、ご了承ください

ホームページをご活用下さい!

群馬県医師会保育サポーターバンクのホームページでは、保育支援申込書や保育サポーター登録票などがダウンロードできますので、これからサポーターバンクの利用をお考えの方はご活用下さい。

また、過去の保育サポーターバンク通信も閲覧できますのでぜひご覧下さい。

ホームページ <http://www.gunma.med.or.jp/hoiku/>

群馬県医師会保育サポーターバンク 検索

保育サポーター募集中

保育サポーターバンクでは、県内子育て医師をサポートして下さる保育サポーターを募集しております。お知り合いの方へ保育サポーターバンクを紹介していただけると大変ありがたいです。子育て医師が離職せず動き続けることで、医師不足解消を目指します。ぜひご理解とご協力をお願いいたします。

詳細は、上記ホームページをご覧ください。下記お問い合わせ先までお気軽に電話やメールなどでご連絡下さい。多くの方の登録をお待ちしております。

感染症対策

「マスクの着用を含む咳エチケット」について

群馬県医師会理事 今泉友一

「マスクの着用を含む咳エチケット」は、「手洗い」とともに新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本となります。

3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう



マスクを着用する (口・鼻を覆う) ティッシュ・ハンカチで 口・鼻を覆う 袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を確実に覆う 2 ゴムひもを耳にかける 3 隙間がないよう鼻まで覆う

お問い合わせ

群馬県医師会 保育サポーターバンク

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町1-7-4 TEL.080-1115-4176(相談員直通) 月～金曜日(祝日を除く)10:00～16:00
FAX.027-231-7667(群馬県医師会事務局) E-mail: hoiku@mail.gunma.med.or.jp

利用医師の声



「今日はTさんのおうちで何したの？」
「実を取って来たよ。おいしかったよ。」
一人目の子が9か月の頃に仕事に復帰し、すぐに保育園のお迎え時間に間に合わないという壁にぶつかりました。そこから多くのシッターさん、サポーターさんにお世話になる日々が始まりました。中でも15年間お世話になり、今も頼りにしているのが冒頭のTさんです。上の子が1歳の頃から保育園のお迎え、夕飯、習い事の送迎と頼りつきりです。その間に下の子が生まれ10歳になりますが、いまも二人そろってお世話になっています。

実は、中学生になってもサポーターの方ににお世話になるとは15年前には想像していませんでした。子どもも大きくなれば徐々にサポーターは必要なくなると思っていました。中学生になれば習い事も自転車で行き、食事も自分で準備できます。しかし、骨折して自転車に乗れない等、思いもよらないことが起きるのです。そんな時に頼りになるのがサポーターの方なのです。

子育て中、子どもが何歳になっても周囲の方々の支えがあることは心強いです。仕事と家庭の両立は周囲の方々のサポートのもとに成り立つものだと思います。サポーターの方々、子ども達に感謝してこれからもできる限り仕事を続けていきたいと思っております。(H・Hさん)

平素より5歳の長女と2歳の次女をサポートさせていただいて大変感謝申し上げます。医師会のサポーターバンクに登録したのは次女が生まれて復帰するタイミングでしたので、2017年6月からのことです。それまで利用していた一般企業のベビーシッターサービスが終了になったのを契機に移行した次第です。現在は4名のサポーターさんに日替わりでお世話になっております。私の実家に来ていただいています。実家も自営業のため、平日は毎日保育園の早帰りから夕食までの間、土日は自分が病棟当番や日直の時に随時サポートをお願いしています。

私は初期研修中に長女を、後期研修中に次女を出産し、医師としての研修も全うしたいという気持ちも強かったため、産後数ヶ月で復職し、可能な限りフルタイムで働くことにこだわってきました。早朝の急なお願ひでも対応して下さるサポーターさんがいていただけるおかげで、身体的にも精神的にも救われております。休日出勤の日も、娘たちは「今日は誰が来るの?」「○○さん大好き!」と楽しみにしてくれるので、こちらも安心してお任せしています。現在3人目となる長男を出産して産休中ですが、またお世話になる予定ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(Y・Kさん)

保育サポーター資質向上研修を開催しました!

2019年11月28日(木)に、保育サポーターを対象とした資質向上研修会を、群馬県医師会大ホールにて開催しました。今回は、群馬県中央児童相談所子育て相談員の中島朋子様を講師としてお招きし、「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング(ほめトレ)」についての研修を行いました。

この「ほめトレ」は、「良好な親子関係を築く」しつけを効果的に行うことを目的としております。研修では、ほめる・認める・共感する「コミュニケーション・トレーニング」や、親のこぼれが子どもに伝わりやすく伝わり、子どもがそれを理解し、納得して実行できる「コミュニケーション・トレーニング」を、ロールプレイ等の実践形式などで行いました。今回の研修を通じて、子どもの健やかな成長には良好な親子関係が重要であり、そのためには、子どもに対して肯定的・共感的な言葉かけを増やし、具体的に分かりやすい言葉で伝えることなどが大切である、ということをお学びました。この研修によって、子どもとの接し方についてのスキルアップを図ることができたのではないかと思います。参加者は28名でした。



《ご参考》「ほめトレ」チラシ

「ほめトレ」チラシ内容: こんな時、どうしますか? 子育てのヒントにしてみてください! 結果よりも気持ちや努力をほめよう? 食後に子どもが食器の後片付けをしようとして、落として割ってしまった。 比べないで、その子なりの進歩をほめよう? 箸の使い方が上手になってきた兄だが、妹に比べて食べこぼしが多い。 あいまいな表現ではなく具体的に伝えよう? おもちゃが散らばった部屋で、子どもが「DVDを見たい」と言ってきた。 肯定的な表現を避けて肯定的に伝えよう? 混雑する遊園地で、子どもが「あれに乗る!」と言いながら走り出した。

私は、サポーターバンクに登録させて戴いてから約8年になります。これまでたくさんの方々のサポートの仕事をさせて戴きました。
ママのお仕事を理解してか、私の家ではごはんを食べたり、お風呂に入ったり、ゲームで楽しんだり、テレビを観たり、そして私とおはなしをしたりして、ママが迎えに来てくれるのを待っていた子どもさん。保育園の送り迎え時に「ママがよかった!!」なんて言われながらも「またあしたね、バイバイ!!」とお家に飛び込んでいった子どもさん。大変だったのは、病児を預かった時のことでした。回復期なのでママに逢いたくて、さみしくて、さみしくて泣きだしてしまったりで、自分の子どもと向き合っていた感覚でくたくたになってしまったこともありました。でも、そんな色々な子どもたちとの出会いが今の私が楽しく充実した生活ができています。
先生方には、日々の生活の中でもお世話になることが沢山あります。今できることをして先生方にも安心してお仕事をして戴けるよう、そして預かった子どもたちと楽しく過ごしていけたらいいと思っております。これからもよろしくお願ひ致します。(S・Iさん)

サポーターバンクに登録してもつづぐ4年目になります。主なサポートは、乳幼児は幼・保育園の送迎、小学生は習い事の送迎などです。お手伝いをしていて特に感じるのはこのご家庭もご主人が家事・育児に積極的に参加されているということ。普段はお忙しい中ご夫婦で協力され頑張っている姿が、急な出張・子どもの急病など対応できないときには、早朝から夕方まで1日お預かりしたり、かかりつけ医の受診を依頼されることもあります。
小さいお子さんは、朝の登園時に離れられずがついたり、お迎えの時には走ってきて抱きついてくれることもあります。そんな姿は我が子の幼い頃と重なり胸にじんとききます。また小学生になると塾の送迎時に学校の事などいろいろ話してくれてそれもまた楽しい時間です。
相談員の方には、手続き等でもいつもお世話になっています。
これからも微力ながら出来る限りお忙しい先生方のお手伝いをさせていただきます。
たらと思っております。(Y・Gさん)

サポーターさんからの声

